



9月に入って2週間が経ちました。

毎日、運動会の練習が基本です。ホールや園庭などを使う練習とありますが、学年単位での練習や年長組のリレーの練習は屋外の広いグラウンドが必要です。衣服の汚れを気にせず、練習に取り組ませたいのですが、もう少し時間が掛かるでしょう。秋空の下で、それぞれの学年がクラスをひとつにして汗を流しております。

■ つばみさんたちが登園してくると待ちましたとばかりスタッフが待ちうけていて、壁を借りてのさか立ちに取り組んでおります。

足を支えながら「10、11、12…」と数えながら励ますスタッフ。「やったネ！」と言いながらその記録を手の甲に書いてあげる光景が、^{おへぎ}教室、園庭、ホールとあちこちで。この成果はやはり大きな喜びとなって実るでしょう。

■ 自由あそびの時間は、毎日の園生活でこととたちにとっては大好きな時間です。

何かに制約された時間と自由な時間がバランス良くある事で効果があるのであって、これがどちらかに片寄ってしまうと全く効果は期待できません。



制約があったから自由の時間には^{はじ}弾けることが出来るし、自由があったから制約の中でがまん出来るのです。

■ 最近の園庭でのあそびで目につくのは、つばみと年少児たちの活発さです。特に目立つのが2輪車キックバイクです。3輪車は足で漕ぐのに力が必要なので、とっぱらお兄ちゃん、お姉ちゃん達です。最近では小さな体がキックバイクにまたがって疾走しています。すごい上達ぶりです。

■ この自由あそびの時間の最中にピンポン、ポンとチャムの音。「年長さん、ドリルの時間です。」のアナウンス。とびにはしゃいでいる年長さん、「ピタン！」とあそびを止めてそれぞれの教室に入っていきます。運動会の練習の為、一時期の光景ですが、こととたちの心の切り替えの力は立派です！

(心の育ちシリーズ)

こころを大切に

東京台東区の某仏具店の看板に「こころはかたちを求め、かたちはこころをすめる」とあります。こころは神仏を敬う心、かたちは神棚や仏壇を指しているのでしょうか。かたちを整えることよって、神仏を敬うこころが養われることを説いているんですね。

今の我が国は、かたちにおいてはあらゆる方面で整ってきたと言えるでしょう。しかし、かたちに伴うこころをどこかに置き忘れてきてはいないか、と私は憂慮しております。

企業において、売上高や利益水準など数値はかつてとは比べものにならない程大きくなっており、企業統治の不良や不正は後を絶ちません。自分が求め、入った企業を愛するこころが希薄になっております。

教育においても同じです。キャンパスと言うかたちだけが立派になりましたが、「教育内容」と言うこころは、近隣諸国や諸外国と比較して著しく劣っていることは統計資料の示す通りです。知識はとどより、人格を育み、人間を育てる教育は欠如していないでしょうか。

家庭も例外ではありません。家屋は総じて立派になったものの、肝心の家庭がなくなった現状では、三世代同居と言う言葉も虚しく響くばかりです。親は子を大切に、子は親を敬う。家庭のこころはどこへ行ってしまったのでしょうか。

国を愛するこころも、自分たちを育ててくれた郷土を愛するこころも、職場を愛するこころも、母校を愛し先生を尊敬するこころも、祖父母や両親に感謝するこころも、子や孫を慈しむこころも希薄になってきている今、私たちは「かたち」と同様に「こころ」と大切にしなければならぬ事を胸に刻まなければなりません。

アサヒビル社友 福地 茂雄
雑誌「致知」より